

# Gira X1 トリバムを使用したオーディオ コントロールのセットアップ

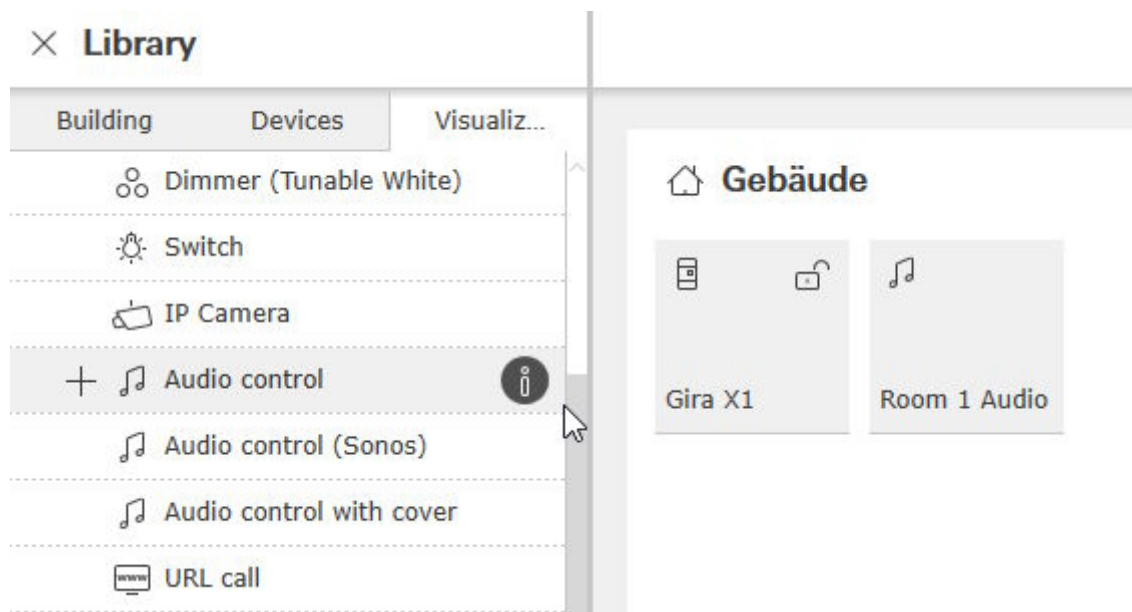
trivum technologies GmbH <[info@trivum.com](mailto:info@trivum.com)> v1.0, 2025-02-27

# Gira X1 Audio control setup with trivum

1. オーディオコントロール機能とKNXの使用 .....	1
1.1. KNX グループ アドレスを定義してリンクし、この部屋の音声を制御します.....	1
1.2. KNX グループ アドレスを定義して、trivum から送信されたステータスを表示します。.....	2
1.3. trivum デバイスの Web セットアップを入力します。 .....	2
1.3.1. コントロールフィールドに記入します .....	2
1.3.2. ステータスの数値フィールドに記入します.....	3
1.3.3. テキストステータスフィールドを設定する.....	3
1.3.4. 次/前のプレイリストに反応するようにゾーンを設定する .....	4
1.3.5. KNX 通信のセットアップ .....	4
1.4. Gira プロジェクト アシスタントに戻る .....	4
1.5. Gira スマート ホーム アプリを実行する.....	4
2. trivum ミュージック サーバー WebUI への URL 呼び出しの使用 .....	6

# 1. オーディオコントロール機能とKNXの使用

trivum WebUI を使用せずに直接オーディオ コントロールが必要な場合は、Gira プロジェクト アシスタントに移動し、要素 "Audio control" をプロジェクトにプルします。



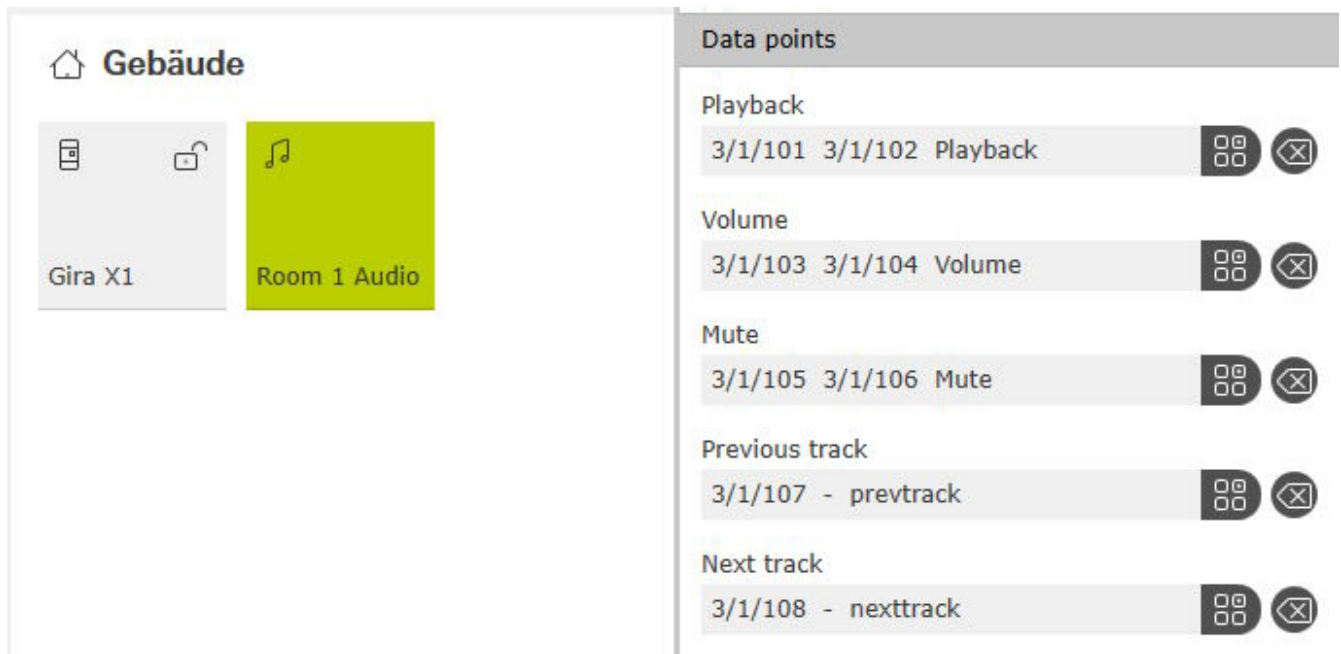
部屋ごとに 1 つの要素が必要なので、最初の要素に "Room 1 Audio" という名前を付けます。

## 1.1. KNX グループ

アドレスを定義してリンクし、この部屋の音声を制御します

これは、グループ アドレスの例を示す表です。好みに応じて調整してください。

機能	送信アドレス	読み取りアドレス	データタイプ
再生	"3/1/101"	"3/1/102"	1 bit
ボリューム	"3/1/103"、データ型の設定: <b>5.001</b>	"3/1/104"	8 bit
ミュート	"3/1/105"	"3/1/106"	1 bit
前のトラック	"3/1/107"	-	1 bit
次のトラック	"3/1/108"	-	1 bit
前のプレイリスト	"3/1/109"、初期値デフォルト " <b>0</b> "、値を維持	-	1 bit
次のプレイリスト	"3/1/109"、初期値デフォルト " <b>1</b> "、値を維持	-	1ビット



## 1.2. KNX グループ アドレスを定義して、trivum から送信されたステータスを表示します。

「読み取りアドレス」のみを入力してください:

トラック	-	"3/1/111"、データ型の設定: 16.001	14 バイト text
アルバム	-	"3/1/112"、データ型の設定: 16.001	14 バイト text
アーティスト	-	"3/1/113"、データ型の設定: 16.001	14 バイト text
プレイリスト名	-	"3/1/114"、データ型の設定: 16.001	14 バイトのtext

注: フィールド "Playlist" (名前なし) は未使用であり、空のままです。

## 1.3. trivum デバイスの Web セットアップを入力します。

に入る :

構成/ゾーン/最初のゾーン/KNX バインディング

### 1.3.1. コントロールフィールドに記入します

機能	trivum フィールド	value
再生	ゾーンのオン/オフ	"3/1/101"
ミュート	ゾーンまたはグループのミュート	"3/1/105"

ボリューム	ゾーンまたはグループのボリューム	"3/1/103"
前/次のプレイリスト	次のソースを再生	"3/1/109"
次のトラック	キー「>」	"3/1/108"
前のトラック	キー「<」	"3/1/107"

<
**KNX objects 'Room 1'**
? ↺ 田 □

**1. KNX objects to control status of 'Room 1'**

Read 1 bit 0/1
Zone on/off
The default on action after system restart is to use the first KNX/HTTP source defined further below.
3/1/101
...

How should incoming telegram be interpreted
1:on / 0:off >

Read 1 bit 0/1
Zone or Group Mute
0=unmute 1=mute
3/1/105
...

Read 1 bit 0/1
Zone Individual Mute
0=unmute 1=mute
...

How should incoming telegram be interpreted
1:mute / 0:unmute >

**2. KNX objects to control zone or group volume of 'Room 1'**
If grouping is active then the group volume is changed

Read 4 bit dimm
Zone or Group Volume
Behaves like a dimmer
...

Read 1 byte 0-255
Zone or Group Volume
0=0% 255=100%
3/1/103
...

Read 1 bit 0/1
Zone or Group Volume Step 1
0=down 1=up
...

### 1.3.2. ステータスの数値フィールドに記入します

機能	trivum フィールド	value
再生	送信ステータス	"3/1/102"
ミュート	送信ゾーンまたはグループのミュート	"3/1/106"
ボリューム	送信ボリューム	"3/1/104"

### 1.3.3. テキストステータスフィールドを設定する

そのためには、次の場所に移動してください。

オートメーション/knx/ディスプレイ/ディスプレイを追加

- 割り当てられたゾーンの変更: 最初のゾーン
- 表示タイプの変更: 4行表示

線の設定:

行	グループアドレス	ストリーミングがアクティブなときのコンテンツ
1	"3/1/111"	トラックのタイトル
2	"3/1/112"	track のアルバム
3	"3/1/113"	track のアーティスト
4	"3/1/114"	現在のストリーミングサービス/source

#### 1.3.4. 次/前のプレイリストに反応するようにゾーンを設定する

"KNX/HTTP ソース リストを定義します"。次のようないくつかのアクションを入力します。

- お気に入りのウェブ ラジオ ステーションを再生する
- お気に入りのプレイリストを再生する
- ライン入力を再生する

これが完了すると、フィールド "Play next source" がこれらのソース間で切り替わります。

#### 1.3.5. KNX 通信のセットアップ

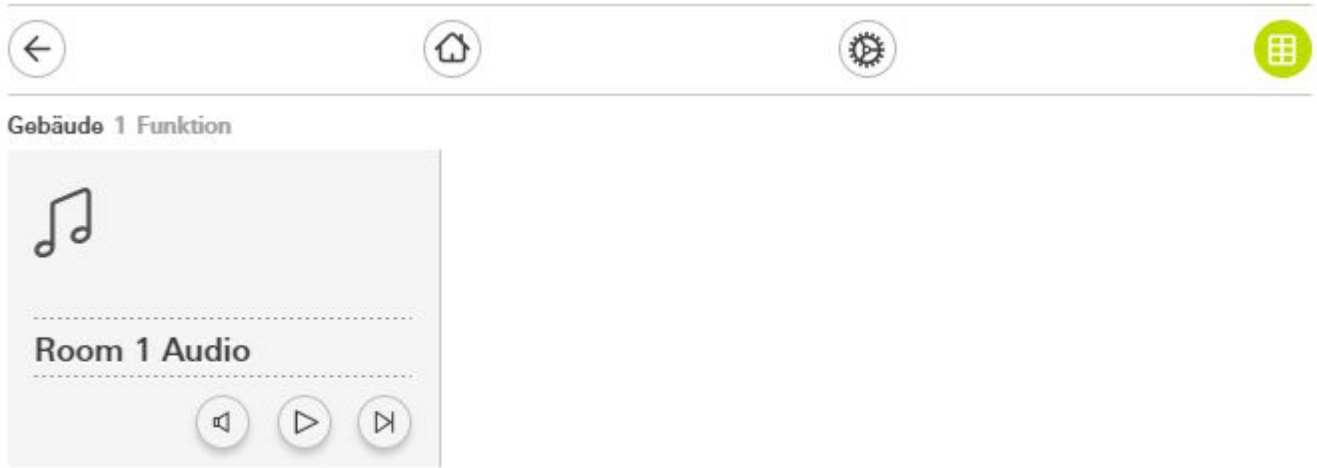
KNX IP ルーターがない場合は、trivum から IP インターフェイスとして Gira X1 に直接接続できます。

### 1.4. Gira プロジェクト アシスタントに戻る

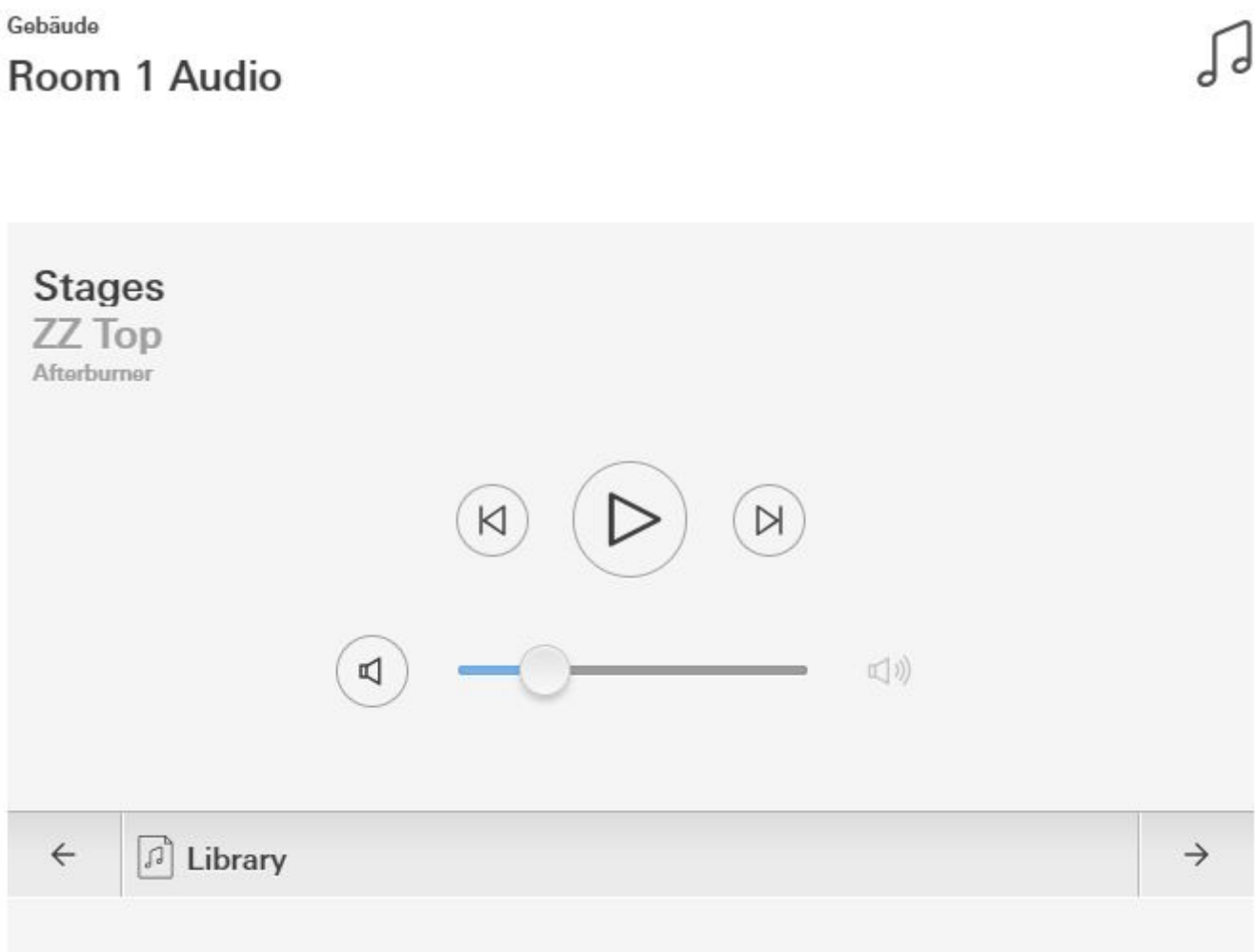
そしてプロジェクトを X1 に委託します。

### 1.5. Gira スマート ホーム アプリを実行する

新しい関数は概要にあります。



それを選択して詳細ビューを表示します。



次のことができるようになりました。

- 中央の再生/一時停止を押してゾーンのオンとオフを切り替えます
- NAS  
アルバムまたはプレイリストが再生中の場合は、その横のボタンで前または次のトラックにスキップします
- 下部の矢印 ← と → を使用してゾーン ソースを切り替えます。

trivum

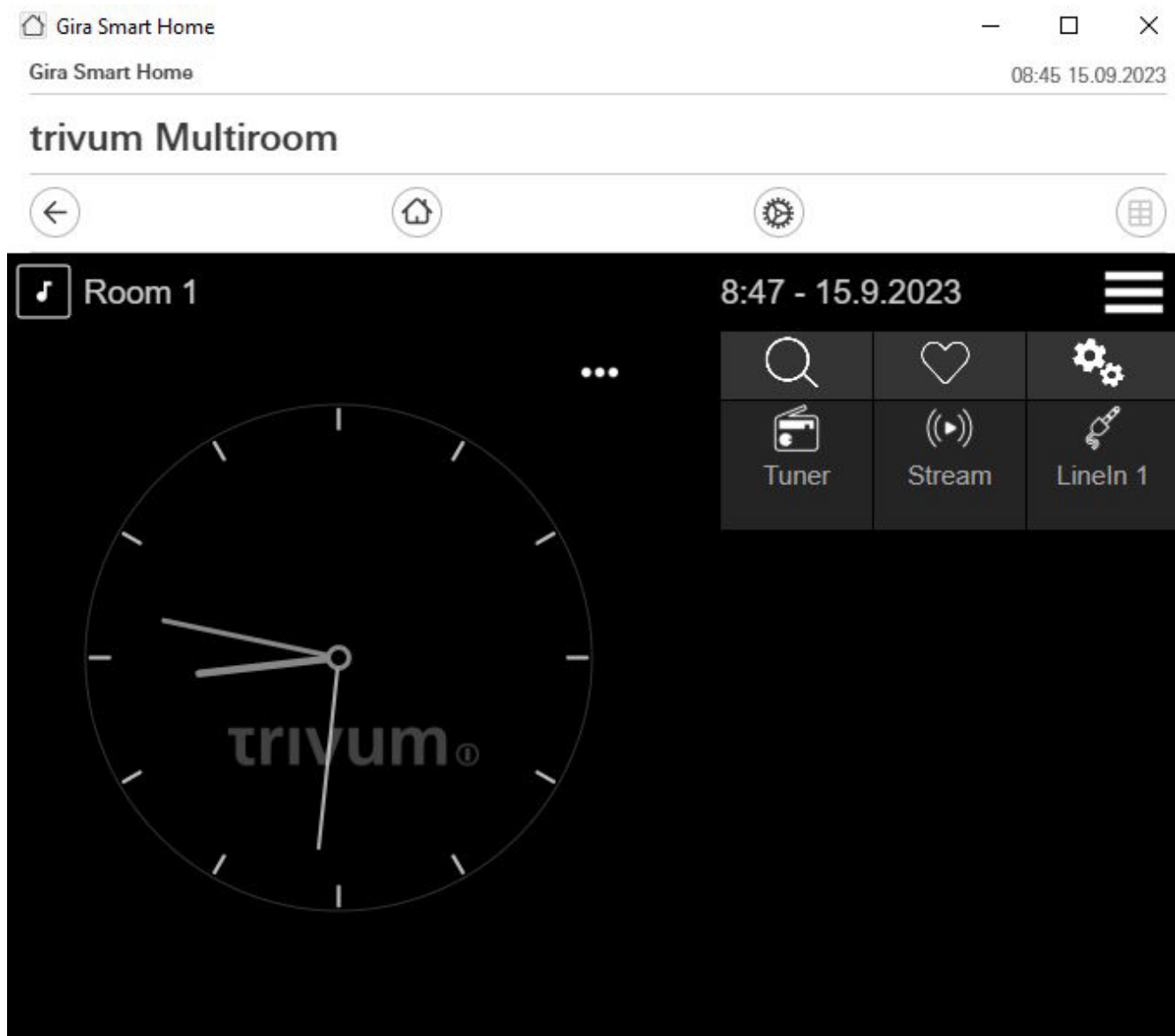
デバイスの再起動直後は、音楽が選択されていないため、ゾーンをオンにだけではサウンドが再生されないことがあることに注意してください。次に、ゾーンソースを選択するには、"→" を 1 回タッチする必要があります。

## 2. trivum ミュージック サーバー WebUI への URL 呼び出しの使用

これは、すべてのゾーンで音楽を完全に制御する最速の方法です。  
Gira プロジェクト アシスタントで、"URL call" をプロジェクトにドラッグします。

[名前] に、たとえば「"trivum Multiroom"」と入力します。  
[パラメータ/URL] に <http://trivumip> と入力します (例: <http://192.168.178.100>)

次に、Gira スマート ホーム アプリを開きます。新しい URL 呼び出しオブジェクトを入力すると、trivum WebUI が見つかります。



。